



アントニオ・ヴィヴァルディ
1678-1741

第129話 私の名曲100選(1)イタリア編

【今日の鑑賞】

5分で聴く名曲

- ・ディベルトメント K.136 モーツァルト
- ・オー・ソレ・ミオ ディ・カプア
- ・マレキアーレ トスティ
- ・マドンナの宝石 ヴォルフ・フェラーリ
- ・奇想曲 第24番 パガニーニ
- ・歌劇「リゴレット」から 前奏曲、女心の歌 ヴェルディ

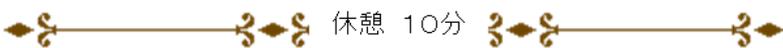


【5分で聴く名曲】

NHKテレビ総合で週2回、BSプレミアムで月～金に日1回、5分間だけ放映される番組を紹介しています。良く知られた名曲や海外のある場所(曲にゆかりのある地)で収録した映像に1曲が5分に収まるように編曲してスタジオ収録した音源を組み合わせることで放送されているのが特徴。字幕による解説が行われるが、ナレーションは無く、現地で収録した音声は放送されない。名曲に隠されたエピソードや、硬いクラシックの思いがけない利用のされ方に驚かされることがあります。これを、毎回数曲聴いて名曲の数々を楽しんでみましょう。

【ヴィヴァルディの“四季”】

アントニオ・ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲集『和声と創意の試み』作品8のうち、第1から第4曲の「春」「夏」「秋」「冬」の総称。ヴィヴァルディ自身は作品8の献辞以外でこれら4曲を「四季」と称したことはない。各曲はそれぞれ3つの楽章から成り立っており、各楽章にはソネット(Sonnetは、14行から成るヨーロッパの定型詩。ルネサンス期にイタリアで創始され、英語詩にも取り入れられ、代表的な詩形のひとつとなった。)が付されている。これらのソネットの作者は不明であるが、ヴィヴァルディ自身の作という説もあります。



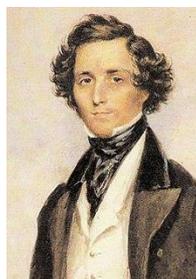
クラシックの定番

ヴィヴァルディ作曲

- ヴァイオリン協奏曲第3番『四季』から“秋”
- ヴァイオリン協奏曲第4番『四季』から“冬”

メンデルスゾーン作曲

- 交響曲第4番「イタリア」から第一楽章



フェリックス・メンデルスゾーン
1809-1847

【メンデルスゾーンのイタリア】

メンデルスゾーンは、1830年～1831年にかけて、初めてイタリア旅行をしました。そのイタリアの印象を交響曲にする構想を持っていました。翌年の1832年にイギリスのフィルハーモニック協会から、交響曲の新作の依頼があり、これを機に本格的に交響曲の作曲に取り掛かります。そして交響曲は1833年に完成しました。

初演は1833年5月13日にロンドンにて、メンデルスゾーン自身の指揮により行われ、大好評でした。のちにロベルト・シューマンは、

“この曲にイタリアの感じを受けない人はいないだろう！”

と述べています。